

処理を考える(29)



図・表・写真などの処理 その3

5. 図を説明する時

原本中でその図の占める役割を考えて、説明するのかわからないのか、説明するとしたらどこで、どのようにするのかなどについては、

1. 基本的な考え方
2. 図・表・写真などの原本に占める役割
3. 具体的な処理の方法

を参照して下さい。

地図、系図、グラフ、系統樹、配線図、見取図、化学構造式等ター口(たがぐち)に図と云っても実に様々なものがあります。ここではこれらの図を説明するときに注意すべき点をいくつか上げてみます。

(1) はじめに図全体が何を表わしているのかを説明します。細部から説明をはじめても何についての説明かわからないと理解しにくいものです。

(2) 図の形を再現出来るような説明が必要な時もありますが、多くの場合必要なのは図の示す内容です。形の説明にこだわって却って内容をわかりにくくすることもあります。ポイントをしっかりと擷(と)んで出来るだけ簡潔な説明を心掛けて下さい。

(3) 説明する時に使う言葉は原本の対象となる読者層を考慮して選んで下さい。小学生向けの本で、放物線、相関図などの言葉を使うことはないと思いますが、専門書などでは適当な熟語を適切に使うことで、簡潔でわかり易い説明をすることが出来ます。あいまいな表現を使わず、事柄を特定できる言葉を選んで下さい。いろいろな言葉を使いこなせるようにすることは、良いテープ作りの大切な要素です。

具体的な物に例えて説明する時には、その物が非常に一般的なものでなければならぬのは勿論ですが、利用者が視覚障害者であることを考えれば、見えている者の感覚で安易に物に例えることは混乱のもとになると思います。

(4) 地図、配線図、装置の見取り図などのように、図では全部を説明する必要のないことがあります。本文を理解する上で必要のない部分まで細々と説明すると、却って全体の理解を妨げることとなります。全体については「〇〇の図です」などと大まかな説明に止め、必要な部分だけ細かく説明します。

(5) 医学書など専門的な図を説明する時には、本文を熟読すると共に百科辞典などを参考にしてください。見たままを説明すると云っても、図の見方は、見る人の知識の程度によって異なります。例えば脳の構造、内臓の位置関係などを何も知らずに説明したのでは、誤りを犯すこととなります。このような時には百科辞典、家庭用の医学書などを読んで、確かめることによって自信を持って説明することができます。但し、この場合注意しなければならないことは、図の説明に、辞典などで得た知識をつけ加えてはならないということです。辞典などは、図を誤りなく説明するための参考にして下さい。

(6) グラフを説明する時

- ・グラフにもいろいろあります。棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフなど色々なグラフの名称を正しく覚えて下さい。
- ・グラフに記入されている数値を読む時には「・・・・を示す〇〇グラフです」と説明して数値を読み上げます。縦軸、横軸の説明はしなくても良いときもあります。数値が記入されていなくて、概数で読み取る時には、目盛りのきざみ方を説明し、概数で読み上げることをことわって下さい。そして、読み取る時には、物差し、分度器などを使って出来るだけ正確に計ります。
- ・グラフ上の直線、曲線、折線などの傾向を説明する時には、縦・横軸の目盛に注意して下さい。対数目盛が使われている時には、それも忘れずに説明します。目盛によってグラフ上の直線、曲線の意味が全く違ってしまいます。
- ・急激に上昇、なだらかに下降などの表現は、比較する対象がある時はいいのですがそうでない時は使わない方が無難です。目盛の幅が一寸変われば急激な上昇もなだらかな上昇に変わるからです。

(7) 流れ図、系統樹などは書かれていることを順に読んでいくだけではわかり難いことが多いのです。番号をつけるなどの工夫が必要です。又、系図ではいつも上から下へ読んでいくのではなく、中心人物との関係を主に説明していくという方法も考えられます。

つづく

今日の練習問題

練習問題 1

* 表記が問題

日本人妻と親族七人が不明

平野喜右衛門は、北朝鮮から届いた手紙の内容、発信人を、詳細な年表に整理していた。在日朝鮮人の妻として北へ渡った姉の死とその周辺にある多数の行方不明者が謎めいていたからである。

彼は仙台市宮城野区で床柱や高級木彫品を扱う銘木販売会社を経営していたが、いまは年金生活を送っている。ことし七十歳。事務所兼自宅になっているビルを訪ねた。

北朝鮮に渡る前、姉の喜代子は横浜市港北区日吉で貿易会社に勤める夫と一人娘の一家三人、経済的には不自由のない生活をしていた。

「やはり、子供の将来を考えて差別のない朝鮮へ行こうと夫の英^{ユンジョン}準さんに引かれるように北朝鮮へ渡ったのだと思います」

喜右衛門は手紙の山をテーブルに並べながらいった。

朝鮮人との結婚も、北への永住帰国も喜右衛門をはじめ身内は猛反対したという。しかし、姉は「向こうは、きっといい国に違いない。生活は保障されているのだし」との言葉を残し、旅立った。五九年十二月十四日の帰国第一船だった。このとき、夫婦はともに三十六歳。娘の蓉子^{ソンジョン}は十歳だった。

帰国後、一家は平壤北方の順川^{スンチョン}に住み、夫は工場の事務職をしていた。

しかし、六一年七月、喜代子からの便りがぶつつり絶える。仙台から何度手紙を出しても返事がない。そして、五年経った六六年十一月、一通の手紙が届く。長女の蓉子からだった。住所は順川の北方、中国と国境を接する平安北道のある都市に変わっていた。生活物資の無心をするほかは、親子ともに健在と受け取れる内容だった。差出人のところには「蓉子、代子」と二人の名前が書かれていた。その便箋を手にしなから、喜右衛門は語った。

「この手紙はきっと代筆なんで善す。蓉子が北へ渡ったのは十歳のときでしょ。その後、日本語教育など受けていないでしょうに、この旧仮名遣いの文字はどう見ても日本で成人した、それも年配の人が書いたとしか思えないんです。日本語を忘れてしまい代筆してもらったのなら、なぜそのように書かないのでしょうか。それに、姉にしても五年間もナシのつぶてだったのに、なぜ自分が筆を取らないのか、取れないならどんな事情があるのかを書いてきてよさそうなのに……、不思議に思いました。」

ペン字で書かれた文字は達筆だった。「其の後」とか「……の為に」など古めかしい漢字が多かった。喜代子は「~~喜~~代子」と書かれている。

喜右衛門は、砂糖や飴、インスタントラーメンといった食料からセーターや防寒具などの衣類、それに封筒、ボールペンなどの雑貨品まで買い揃えては送りつづけた。しかし、返ってくるのは相変わらず「蓉子が書いた喜代子との連名の手紙」で、それ

も翌年に一通来た後三年間はぶつり途絶えた。七一年には差し出しの住所が元山に変わり、数が十通ほどに増えた。しかし、依然として暮らしぶりについては何ら具体的なことは書かれておらず、朝鮮統一や国家建設の政治スローガンと、無心をかなえてくれる喜右衛門への感謝の言葉だけだった。

先月の例文の処理例

練習問題 1

三つの「シドウ」とありますので、「始動」、「示導」、「志向」、それぞれのことばの漢字を言い添えると親切でしょう。

→「指導は始動、シハ、ハジメル、ドウハ、ウゴク、始動だ」ということばがある。すべて最初・・・ / →「指導は示導、シハ、シメス、ドウハ、ミチビク、示導だ」ということばである。子どもが・・・ / →「指導は志向、シハ、ココロザシ、コウハ、ムカウ、志向である」。組織として・・・

練習問題 2

この問題は「やさしい」に2種類あることを問題にしています。しかし、本文では表記も違いますが、わざわざ区別して読まなくても文章はなんら混乱せずに伝わります。処理の必要のない文章といえます。考えすぎてわざわざ複雑に読むことの無いように注意しましょう。

練習問題 3

問題1、問題2ともに正解は、すべて「2」です。問題3は、「荒廃」です。先に「先輩」という言葉が出ているのでどうしても「後輩」という言葉にとられがちです。補足としては、「後輩」ではないということをわからせることがポイントです。荒廃の廃を「廃止の廃」と説明される方もありましたが、「廃止」の「廃」より「廃れる」の方がまだ適切のようです。言葉を補足するケースとして、前の言葉によって違う言葉にとられるような時も補足が必要です。また、補足することばも、例えば「夜麻登」という字の説明で、音声訳者が「よる、あさ、のぼる」と補足したら、殆どの人が「夜、朝、登」と思ってしまいます。「夜」がきて、次に「あさ」と言えば、だれでも「朝」と思ってしまうからです。やはり、「植物の麻」くらいの丁寧さが必要です。

さて、今回の試験問題ですが、受講生で40名中15名が全問正解でした。今回の問題は始めての人でも6問中、5問くらいの正解を求めて出題しました。現在音訳中の方は全問正解で当たり(!?)前の問題です。さて、皆さんはどうでしたか。

「田」の読みかたによって意味が異なるもの (5/7)

大成	タイ 完全に成し遂げること。 材ナリ 果実の沢山なること。	解散	カヤ 集まっている人が別れること。 ゲヤ 解けてなくなること。
小額	ショウガク 少額の額、小さな金額。 コビタイ ひたい。額に関するちょっとした動作にいう。	上書	ウガキ 書状などの表面に文字を書くこと ジョウジョ 意見を書いて宮または貴人に書状を差し出すこと、またはその書状。
成敗	セバイ 処罰すること。 セハイ 成功することと失敗すること。成否。	包む	ツツむ 包むこと。包んだもの。 クルむ くるむこと。

『言葉に関する問答集』より 文化庁編

問：「小人数」は「コニンズ」か「ショウニンズ」か

答：結論を先に言えば、「小人数」は「コニンズ」であって、「ショウニンズ」という場合には、「小人数」ではなく、「少人数」と書くのが普通である。すなわち、「小人数」は「大人数」の対、「少人数」は「多人数」の対である。

しかし、そもそも「ショウニンズ」という語は、『日葡辞書』に「Xoninjū」（ショーニンジュ）の形で採録されているほかは、『和英語林集成』の各版をはじめ、『言海』以降、今日に至るまでの三十数種の辞典等にも、ただ一種のごく新しい小型辞書を除いては見出

し語として採録されていない。（もっとも「コニンズ」を、採録していない辞典もいくつかある。）

日本放送協会の『放送用語ハンドブック』（昭和44）にも、『用字用語辞典』（昭和48）にも、「コニンズ（-）」はあるが、「ショウニンズ（-）」はなく、『放送用語集』（昭和52）に至って初めて採録し、「数の少ないことに力点をおいた表現。」と説明している。

ところで、「小人数」については、下の「人数」を「ニンズ」と読むか、「ニンズウ」と読むかということも問題になると思われる。

これについて、現行の国語辞典では、多くは「ニンズ（コニンズ）」か「ニンズウ（コニン

ズウ)」のどちらか一方を本見出しとして採っているが、その項にもう一方の形をも掲げているのが普通である。

また、当用漢字音訓表では、「数」について「スウ」と「ス」とを字音として掲げ、「人数」を「ス」の例欄に挙げているが、その備考欄で「人数」は「ニズウ」とも、)としている。

結局は「コニズ」「コニズウ」のどちらが正しく、どちらが誤りとは言えないようである。ただ強いて言えば、「コニズ」の方が伝統的な言い方であり、「コニズウ」の方は新しい言い方であると言えよう。

問：「農作物」と「ノウサクブツ」か「ノウサクモツ」か

答：「農作物」は「ノウサクブツ」と読むのか、それとも「ノウサクモツ」と読むのかという問題である。

「農作物」とは、農耕によって得られる生産物である。すなわち、田畑に栽培することによって得られる穀類・野菜類・果実類のことである。

結論から先に言えば、「農作物」は「ノウサクブツ」と読むのが一般的であって、「ノウサクモツ」と読むのは、誤りであるとは言えないにしても普通には用いない。それならば、なぜ、「ノウサクブツ」か「ノウサクモツ」かの問題が起こってきたのかを考えてみると、「農作物」を意味する語に、別に「さくもつ」と言う語があり、これは「作物」と書く。(同じ表記の「作物」と書く「さくぶつ」と言う語もあるが、意味が異なる。)この「さくもつ」と言い「作物」と書く語に引かれて、「作物」に「農」を冠した同じ意味の語「農作物」を「ノウサクモツ」と読み誤ったところから生じた語

であって、本来はノウサクブツと言うべきであろう。同じ語構成の「工作物」・「著作物」なども「~サクモツ」ではなく、「~サクブツ」である。

試みに辞典・参考資料などでの取扱いを見てみると次のとおりである。

『日葡辞書』(慶長8<一六〇三)>・『和英語林集成』(初版・慶応3<一八六七)>)を含めて、明治二十四年刊の『言海』から昭和六十三年末までに刊行された69種の主として国語辞典では、

○「のうさくぶつ」・「のうさくもつ」をともに見出し語に採録していないもの… 18種
(主として大正以前のもので、昭和初期のものは2種。)

○「のうさくぶつ」・「のうさくもつ」をともに採録しているもの…………… 4種
(昭和初期のもの1種、戦後のもの3種。)

○「のうさくぶつ」だけを採録しているもの…………… 45種

うち、語釈のあとに、「のうさくもつ」の形を掲げているもの…………… 21種

「[のうさくもつ]は、あやまり」としているもの…………… 1種

○「のうさくもつ」だけを採録しているもの…………… 2種

次に、NHK関係の資料では、一貫して「のうさくぶつ」を採り、資料によっては、「のうさくもつ」を標準ではないとして放送では排除している。特に『NHK放送用語集—放送用語委員会決定事項—』(昭和52)では、

農作物 [ノーサクブツ] 「作物」を [サクモツ] と発音する類推から [ノーサクモツ] と誤って発音することがあるが、「農作物」の標準となる発音は [ノーサクブツ] である。

きれいに録音する為に 第29回

反響音を減らす工夫

盲人情報文化センターでは、年間、万単位の廃棄するPケースがでてきます。廃棄するのも数万円がかかる為、何か役立つことは無いかと、Pケースを使って、反響音を減らすためのジャバラ式の衝立を作ってみました。

Pケースを板状にして使用すると、反射して使いものになりませんが、ジャバラにすることで、声を乱反射させて反響音を減らすこともできます。(写真1) また、ジャバラの為、机に容易に立てることができまので、録音するときには布(バスタオルなどでも良い)をかぶせれば吸音効果もありさらにきれいな録音になります。(写真2) この衝立を使って実際に反響する部屋で録音してみましたが、かなり効果があることがわかりました。また、この衝立はしっかりしていますのでスタンドマイクを使わずに、マイクを両サイドから吊すことができます。(写真2参照)

製作はPケースをセロテープでつなぎ合わせるだけです。だれでも簡単にできます。Pケースは沢山ありますので、家庭録音で反響音でお困りの方は清水までご連絡ください。作り方も指導いたします。



写真1

制作費

Pケース	0円
セロテープ	250円
布なんでもよい	0円
ひも	0円

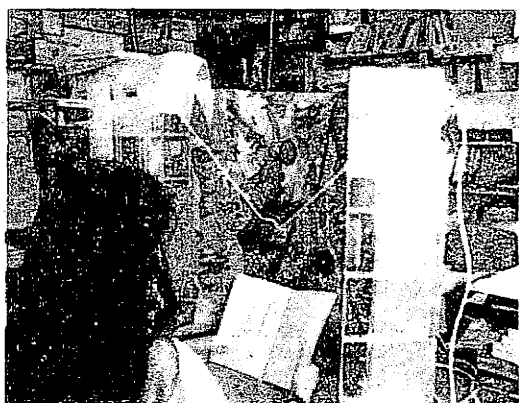
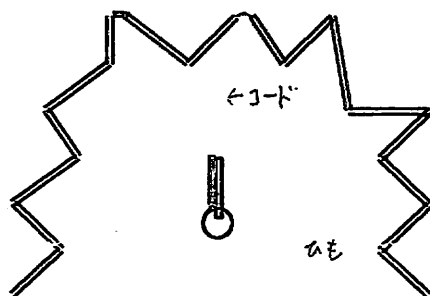


写真2

利用者から製作依頼を受けている原本

書名

- 『免罪者』折原一著 <小説>
- 『スロー・リバー』ニコラ・グリフィス著<小説>
- 『民法（5）契約総論』第4版 遠藤浩他編 <法律>
- 『民法（6）契約各論』第4版 遠藤浩他編 <法律>
- 『宇宙論の危機 新しい観測事実揺れる現代宇宙論の最前線』
マイケル・D.ルモニック著 <自然科学>
- 『ケアマネジメント』竹内孝仁著<社会学>
- 『競馬用語1000』Studio フェラル著 <スポーツ>
- 『日本の名馬』白井透著 <スポーツ>
- 『おなら大全』ロミ&ジャン・フェクサス著 <民族学>
- 『正統の哲学 異端の思想』中川八洋著<西洋哲学> 350頁
- 『魂の幼児教育』としくらえみ著 <教育> 100頁
- 『幼児のための人形劇』フイヤク著 高橋弘子訳 <教育> 125頁
- 『1DNハンドブック 成分と作用がわかる本』伊勢龍彦著 <医学>
- 『ディスカバリー世界の実相への接近』<宗教> B5判 308頁
- 『世界史B98年度用大学入試センター試験超対策問題集』
- 『関節痛のための運動』デーバ・ソベル、アサー・C・クライン著 <医学>

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構です。録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

今回引き受けて頂いた
原本とグループ

- 『ドリームボディ・ワーク』アールト・ミゲル著
- 『人生ニッコリ笑って生命がけ』田辺昇一著

えくてもあ
みなわ